

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	(素案) 修正案
1-1	計画全体	計画全体	読んだ際に流山市特有感が少ない印象があり、別の●●市の地域福祉計画ですと言われても読めてしまいそうな感じがしました。	本計画は本市の福祉施策の基本的な方向性を示すものであり、個別事業等の具体的施策についての記載を各個別計画に委ねていることから、一般的な記載が多くなっておりますが、第4期に向けたニーズ・課題(p46～47)に記載している子ども・子育て・障害児に関するニーズ・課題は、子育て世帯が増加傾向にある本市特有の課題であると捉えております。 また、手話に関する基本理念を定め、市の責務と市民の役割を明らかにする「流山市手話言語の普及の促進に関する条例」(p20)も本市が独自に定める条例となっております。	無	
1-2	p116 ～153	アンケート	アンケートについて、18歳以上に限定されてるのは決まりがあるからでしょうか。小学生、中学生、高校生等々の若い世代からもアンケートはとっても良い気がします(別枠にしても)。むしろ流山市で通学してる子供世代に地域福祉計画について考えてもらい、良いアイデアには参考として地域の福祉計画に添付するくらいの方が見る人も増えるのではないのでしょうか。 子供世代にアンケートや課題を共有することで、自然と働き盛りで忙しい親世代にも触れる機会が増えそうな気がします。	次期計画を策定する際には、18歳未満の若い世代の方の意見等も反映できるよう、アンケート等の実施を検討します。	無	
1-3	p116 ～153	アンケート	アンケートについて、全体の集計だけでなく、せっかく圏域を分けてるので、圏域毎に出して傾向をみてもいいのではないのでしょうか(既に出してたらすみません)。流山市は人口が増えてると思いますが地域により差はあると思います。大雑把にみて、新規流入が多いところ、昔ながらの方がほとんどのところ、混在しているところと3つに分けて、地域の繋がり1つとっても明らかに違った傾向が出そうな気がします。 なので圏域毎の特徴、各圏域をどう繋げるのかを知りたいです。	今回のアンケートにおいても「地域で手助け、協力・支援が必要な人」、「日常生活で困っている内容」等の圏域毎の集計を行った設問がございます。 本計画は本市の福祉施策の基本的な方向性を示すものであることから、計画本編において圏域毎の特徴については記載しておりませんが、各個別施策の実施にあたっては、圏域ごとの結果も踏まえながら進めてまいります。 なお、本計画案巻末にもアンケート結果の一部を抜粋しておりますが、詳細は市ホームページの「流山市地域福祉に関するアンケート結果報告書」を参照願います。	無	
1-4	p56 ～57 p80 ～81 p94 ～95	福祉教育・学ぶ場 地域交流の活性化 多様な人・生き方の理解と受容	福祉について、教育とか活動に参加するとか挙がっていましたが、それも大事かと思いますが、例えば最近新しく学校建てたりして思うので同じ敷地に特別養護老人ホームを建てるとか人数が少なくなってる学校があれば、その一部をデイサービスとかにするとか普段から目に触れる状況を作ること等は行われてるのでしょうか。目に触れ、接する機会があることは全く全世代の学びになるのではと思います。	学校敷地内に特別養護老人ホーム等の介護施設がある事例はございませんが、小中学校の取組として、介護施設等での世代間交流や福祉就労体験といった授業を実施しているほか、地区社会福祉協議会と連携し演奏会や会食会といった多世代交流の催しを開催しております。また特別養護老人ホームを始めとした高齢者施設においても、地域の子どもたちとの交流を図る催しを開催しております。 今後も福祉意識の向上を図るため、地域の様々な団体の協力を得ながら、児童が高齢者や障害者と交流できる機会を設けるよう取り組んでまいります。	無	
1-5	p56 ～57 p80 ～81 p102 ～103	福祉教育・学ぶ場 地域交流の活性化 地域の移動手段の確保	アンケート上に要介護3～5の方の意見が出るか分かりませんが、要介護3～5の方が気軽に町に出ている状況は作れているのでしょうか。介護が軽かろうが重かろうが障害の有無に関係なく様々な方が気軽に外に出れる状況を目にできる状況や場面によっては接する機会があることは全く全世代の学びになるのではと思います。	令和2年1月に要支援・要介護認定者を対象に実施した流山市高齢者実態調査における「できる限り住み慣れた地域で暮らし続けるために、力を入れるべきこと」という設問に対して、23.5%の方が高齢者等の外出や移動に配慮したまちづくりの推進を選択しており、外出・移動支援へのニーズが高いと認識しております。 御指摘のとおり、様々な人の交流を活性化していくためには、介護や障害などの有無に関わらず、誰でも気軽に外出し交流できる環境を整えることが重要であることから、引き続き地域の移動手段の確保やバリアフリー化を進めてまいります。	無	
1-6	p23	基本理念	テーマにみんながずっと住みたい町とありましたが、上述のようにどんな状況においても安楽に過ごせていることを実際に見られれば、働き世代が親を呼んでみようかなとか、賃貸の人が家を買おうかなとか、親が年取っても安心だなとか、ずっと住みたい1つの要素になる気がしました。	本計画を推進し、地域ぐるみで市民一人ひとりの様々な福祉ニーズに応えることで、本計画の基本理念にある「どんな状況においても安心して過ごせるまち」の実現に向け取り組んで参ります。	無	
2-1	p90 ～92 p98 ～99	福祉サービスによる支援 福祉拠点の充実・サービス基盤の整備	男女が共同で入れるグループホームがもっとあると良い	グループホームは居室は男女別ですが、男女共に入居できる仕組みとなっております。今後も需要を踏まえながら整備を進めてまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	(素案) 修正案
3-1	p 94 ~95	多様な人・生き方の理解と受容	障害を持つ人の働ける場が少ない(民間の職場)	就労支援センターや福祉サービスを利用した障害者雇用を含む一般就労は徐々に増加しています。今後も職場開拓を行いながら、障害にかかわらず、希望や能力に応じて、職場を通じた社会参加ができるよう普及啓発に取り組んでまいります。	無	
4-1	p 84 ~85	情報提供体制の充実	コロナ感染時の受診方法をわかりやすく明示して欲しい	新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる際の受診方法については、広報ながれやま令和3年8月21日号1面「感染したと思われるときは相談を」に掲載しているほか、市ホームページ「熱があるときは」に令和3年10月22日に県より公表された「発熱外来指定医療機関リスト」を掲載しております。 なお、感染が心配な際は、まずは「かかりつけ医療機関」にご相談いただき、かかりつけ医療機関がない場合または受診が必要か判断に迷う場合には、流山市新型コロナ専用ダイヤル(04-7138-6121)または千葉県発熱相談コールセンター(0570-200-139)にお気軽にご相談ください。 今後も、誰もが必要な情報を容易に入手できるよう、情報提供体制の充実に努めてまいります。	無	
4-2	p 100 ~101	バリアフリー・安心全の取組み	おおたかの森駅のエレベーターが閉まるのが早くベビーカーが挟まる	市内公共施設におけるエレベーター等の設備について、誰にとっても利用しやすい環境整備に努めてまいります。	無	
5-1	p 90 ~92	福祉サービスによる支援	地域活動支援センターを利用する際、交通費を助成してほしい(野田市、柏市、松戸市は助成がある)	地域活動支援センターへ通所している交通費については、工賃が支払われている地域活動支援センターは助成の対象となる場合があります。	無	
5-2	p 91 p 98 ~99	障害者の支援 福祉拠点の充実・サービス基盤の整備	地域活動支援センターの数を増やしてほしい	地域活動支援センターをはじめとした福祉施設・福祉サービスについては、サービス需要を踏まえながら整備を進めていきます。	無	
5-3	p 86 ~87	包括的な相談支援体制の推進	相談員が少ないため増員して欲しい(相談支援体制の強化)	相談支援機関における相談員等の職員については、相談支援ニーズの状況を踏まえながら必要な人員の確保に努めてまいります。	無	
6-1	p 84 ~85	情報提供体制の充実	この説明書を読んで流山市の考え方がほぼ理解できました。菅前首相が「まず自助を」と言った時に共助や公助に安易に頼るなどというニュアンスを感じ、コロナ禍で困っている人が多いのにとっても冷たいと思いました。市の考え方はこの三者が平行して行われるものであることを理解しました。そこで感じるのは行政が市民にどのように伝えるかで市民の受け止め方が違ってくるといこと。 広報活動の重要性 ・市民目線の言葉の使い方 ・広報ながれやまも、もっと魅力的に(松戸市の広報誌は「読みたい」気持ちになります)	御意見のとおり、市民の皆様には何かを御伝えする時や御話を伺う際には、「市民目線」を持つことが重要と考えております。 広報をはじめとした情報発信においても、常に「市民目線」を意識し、市民の皆様には喜ばれる魅力的な情報提供に努めてまいります。	無	
6-2	p 76 ~77	地域コミュニティ・自治会の活性化	一人ひとりができることを行う中で他人とつながりにくく、家にとじこもりがちなのもいます。そういう人たちに外に目を向け関心をもってもらうことが大事だと思います。地域の自治会・老人会・PTAなどがちょっとした呼びかけをしてくれることも必要かなと思います。	御意見のとおり、一人でも多くの方が地域や周囲に関心を持てるよう地域のつながりづくりを進めることが重要であるとと考えております。引き続き地域の様々な団体や個人の方と連携しながら本計画を進め、地域のつながりづくりを推進してまいります。	無	
6-3	p 68 ~69	ボランティア・NPOとの連携	ボランティア団体は自分たちだけでは解決しにくい事柄があった時、市に相談・要望に行くことがあります。その場合、すぐに応じられないことであっても要望として受け止め検討していただけたらと思います。	ボランティア団体は本市の地域福祉を推進していく上で、重要なパートナーであると考えております。頂いた御相談や御要望につきましては、可能な限り応じられるよう、受け止め検討してまいります。	無	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	(素案) 修正案
7-1	p 74 ~75	地域包括ケアシステムの拡充	<p>自宅で、出来るだけ長く生活をしたい。そして出来ることなら子ども、孫などの世話にならずに、やむを得ず療養所、病院などの施設(自宅療養を含む)に入るまで、可能な限り自力での生活を続けたい。という「思い」をお持ちの方が大勢を占めているのではないのでしょうか。そしてそういう方々に大切なのは、近所、町内、住居地域さらには現役時のつながりなどの人づきあいではないのでしょうか。</p> <p>各地域での公園清掃などのボランティア、ラジオ体操、健康体操、そして老人会を中心とした様々なサークル活動などが行われていますが、地域の高齢者や高齢世帯が増えているにも係わらず、これらの活動への新たな参加者が増えずに、参加者の減少により尻すぼみになっている傾向さえあります。</p> <p>高齢者の自助には、地域住民相互間の交流、関わり合いが欠かせません。前述したボランティア、サークル活動などへの参加者の減少傾向に歯止めをかけ、増加に転じるべく取り組みが、今まで以上に必要ではないのでしょうか。</p> <p>自治会、民生委員、老人会、支え合い活動推進ネットワーク、高齢者ふれあいの家、等々地域の福祉を推進する組織は存在するが、目的及び対象者が重複し、各活動に連携性がなく、それぞれがばらばらで、新たな参加者、対象者を増やす施策、実効性に乏しいと思われます。</p> <p>老人会、民生員、ふれあいの家等々を統廃合ないしは協力し合う、自治会組織を中心とした仕組みをつくり、人材、情報と資金を有効かつ効果的に共有・活用し、各地域の実情(年齢層・設備など)に合った具体的施策を実行すべきではないかと考えます。</p>	<p>御指摘のとおり、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるためには、地域で活動する様々な個人や団体の連携・協力を活性化し、地域ぐるみの支え合い・助け合いを推進していくことが重要と考えます。</p> <p>ボランティア活動やサークル活動を始めとした様々な地域活動が活性化していくよう、地域での連携・協働に資するサービスや資源等の情報提供・情報共有を推進し、連携強化に努めてまいります。</p>	無	
8-1	p 76 ~77 p 80 ~81	地域コミュニティ・自治会の活性化 地域交流の活性化	<p>1 地域の取組みで重要なのは、イベント等の企画力だと思います。企画が魅力的であれば人は集まります。納涼祭、文化展、ラジオ体操、100歳体操、健康マージャン、医師による健康講座等は人気があります。呼びかけだけではダメで、進んで参加してもらえらる企画が重要です。</p> <p>2 市にも若い世代や高齢者に魅力的な講座の充実を望みます。</p>	<p>御意見を踏まえ計画を修正しました。引き続き魅力的な市主催の講座の充実を図っていくとともに、地域においても魅力的なイベント等が多数企画されるよう、各種団体との情報共有や意見交換を積極的に行い、多くの方がひきつけられる魅力的なイベント等の創出に努めてまいります。</p>	有	p 81の「市の取組み」 「誰もが気軽に参加できるイベント～」を「誰もが気軽に参加できる魅力的なイベント～」に修正
8-2	p 68 ~69 p 102 ~103	ボランティア・NPOとの連携 地域の移動手段の確保	<p>地域の取組みとして福祉有償運送はこれから益々重要性が増すと思われます。地域で取り組みしやすいように、先行事例の紹介、運用ノウハウ、資金支援等のサポートを市に望みます。</p>	<p>引き続き福祉有償運送を実施するNPO法人等に対する支援を継続し、移動困難者の移動手段の確保に努めてまいります。</p>	無	
8-3	p 92 p 98 ~99	子ども・子育て世代の支援 福祉拠点の充実・サービス基盤の整備	<p>保育サービスの一層の充実をお願いします(東部地区)</p> <p>東部地区は高齢化が進んでいます。しかしJR南柏や北小金から大手町までは約40分で行けます。保育サービスの充実とセットで、市には都心に近い街であることをPRしてもらいたいと思います。</p>	<p>東部地区も含め、市全域において若い世代が増えるよう、引き続き保育サービスを始めた子ども・子育て世代へのサービスの一層の充実にも努めるとともに、引き続き本市の魅力のPRにも取り組んでまいります。</p>	無	
9-1	p 24 ~25	自助・共助・公助の考え方	<p>最近受けた研修の中で、地域福祉の役割分担に、左記の自助・共助・公助に互助が加わっていました。互助とは、相互に支え合っているという意味で「共助」と共通点があるが、費用負担が制度的に裏付けられていない自発的なものと定義されていました。(講師：淑徳大学 学長 山口光治先生) インターネットで調べると、「自助・共助・公助」に加えて「互助」が地域力の強化と安定的な地域社会の実現に必要であると明記してあります。(内閣府平成24年版高齢社会白書より) また、板橋区の健康生きがい部おとしより保健福祉センターの地域包括ケアシステムでは、様々な生活課題を「自助・共助・互助・公助」の連携によって解決していく取り組みが必要となると明記。従って、結論を申しあげると、第4期地域福祉計画(素案)では、このままでいいかと思いますが、次の計画を立案する際には、互助を加えていただきますようご検討をお願いします。</p>	<p>地域包括ケアシステムの考えにおいては、ご指摘のとおり、介護保険に代表される公的な社会保険制度における費用負担の観点からの助け合いを「共助」と位置づけ、制度的に費用負担が位置付けられていない助け合いを「互助」と位置付けております。本計画においては、公的な社会保険制度を行政の役割と考え、公助の中に整理しました。一方で社会保険制度外の助け合いである「互助」については、地域の役割として「共助」の中に整理したところです。次期計画策定の際には、改めて国の考え方も踏まえながら計画の構成を検討してまいります。</p>	無	
10-1	p 86 ~87	包括的な相談支援体制の推進	<p>流山市の福祉に対しての取り組みは良いと思いますが、市全体を見ても、新住民、新住民と旧住民、そして旧住民が多い地域がそれぞれ見られます。地縁、血縁、親戚そして何代も続いた私が住む町は、絆・支え合い・助け合いが濃いようで意外と薄いと感じます。</p> <p>私は民生委員ですが、このようなことに、包括支援センターの方々も努力されていますが、孤立する高齢者にアウトリーチを協力的に推進するために人員を増員してはどうかと考えます。</p>	<p>御指摘のとおり、高齢者をはじめとした地域で孤立している方であっても、必要な支援につながるよう「出向く」相談を積極的に行っていく必要があると考えます。</p> <p>高齢者なんでも相談室(地域包括支援センター)は、地域の高齢者人口に応じて適切な人員配置になるよう努めてまいります。</p>	無	